

RESTART PRESENTS

Caravan ticket

キ ャ ラ バ ン

チ ケ ッ ト

written by yu-ki

何となく 4137km

ヒッチハイクして

日本縦断

ネアンデルタール人も絶賛

『この本で彼女が出来ました』

東シナ海を中心に話題騒然

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

prologue

～旅の始まりまでの物語 高校編～



ゆき



VV

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

さあ、旅に出よう。

旅は、足を使っていく旅と

頭を使って自分の心の声を聞きに行く旅と

2種類あるんだ。

心の旅は、「今」、この瞬間から出来る。

さあ、旅に出よう。



photo from okinawa

[news ラルクがアルバム2枚同時リリース !!]

ゆ〜き『お〜、すげー、俺どっちも買っちゃう』

ソノ『曲覚えて、カラオケ行くべ〜』

1999年の当時、高校生だった俺は

「大親友であり女を知り尽くした男：ソノ」

とそんなノリで高校近くのシダックス（カラオケ）に行ったり・

「語彙のマジシャン：キム」や

「鬼才すぎて才能の無駄遣い：岡くん」

を呼んで高校近くの地区センターで卓球したり・・・

流行ってた携帯の出会い系を始めてみて、

やっと出来たメル友がなんと**同じクラスの女の子**だったり（笑）・・・

「親友っぽい男：フジクラ」に

彼女が出来た話→フラれた話を聞いてもらったり・・・

つとまあ、毎日をそれなりに楽しく過ごしてたんよね。

あの頃は時間もいっぱいあったし、毎日すげ楽しく過ごしたなあ。

でも、高3ぐらいになると、

周りの皆は「超受験モード」になってきて、

月曜：学校一塾、火曜：学校一塾、水曜：学校→図書館一塾。。。

みたいな。雰囲気もピリピリしてきて勉強地獄生活スタートって感じ。

その当時の俺は自身の人生の中で

「三重苦」と呼ばれる暗黒時代に突入しております。

何が辛かったかと言うと。。。

- ・ 大好きな彼女（ゆかちゃん）にフラれた
- ・ 大好きなバイト（マック）をクビ
- ・ 大好きなテニス部（麻雀部）をクビ

という事象が**時期的に重なって**てさ。

同じクラスのゆかちゃんはフラれた後の席替えで

不運にも前後の席になっちゃうし（配布物回す時とか超きまずい）

プール脇にあるテニス部の部室（麻雀完備）

が溜まり場だったんだけどそれもいけなくなったし、

ゴマキ似の後輩が奇跡的に二人もいる華のバイトもなくなって、

ゲーセンでする競馬ゲームぐらいしかするコトなくて、

クツツつままない毎日だったよ。

ゆ～き『なんて俺はダメ人間なんだ。フナ虫以下だ俺は。』

って感じで何をするにも自信が持てなかったんだよね。

そんな中、除々に始まってきた受験シーズンが重なって辛かった。

確かその頃かな、テレビでジョージア（コーヒー）のCMから
「あし～た～があるさ～、あすがある。わか～い僕には夢がある～」
って聴こえてきてさ。

「若いけど夢も希望も無えーよ。アホが」

と思いつつ、のほほ～んとしたその曲を聞いているうちにさ、
だんだん癒されてきて

「とりあえず辞めたコトのウチ、

何か一つだけでも続ける事から始めよう。

若い頃の苦勞は買ってでもしろって、言うじゃない。ねえ」

と不思議と思ったんよね。それを達成出来れば、

ちょっとだけ自分が好きになれるんじゃないかなって思ってさ。

んで最初に思ったのは彼女とよりを戻そうってコト。

多分「三重苦」の8割はこれがきつと原因。

彼女には再起をかけて、もう一度告白したけど

『友達としてしか見れない』

という回答をもらいNG。バイチャ～。（泣）

（結局、その後別の彼氏が出来たという話を聞いて、
ショック死するかと思ったけどね。）

次はマックバイトの副店長のトコに頭下げにもいったんだけど、復掃条件がなんと「早朝シフトに週3に絶対入る」。

二度寝に定評のある俺だったので、むしろこちらからNG。パーイ。

んで、最後のテニス部は顧問に頭超下げにいったんだけど、顧問『お前の勝手に辞めたんだからダメだ！ この**フナ虫以下**が！』と言われたかどうかは知らないが、とりあえず断られて、ゆ～き『俺の高校生活は自信喪失のまま終わってしまう、**アーメン**』って諦めかけたんよね。

「まあ単なる部活だし、俺は**スラダンの三井寿**じゃないんだから、そんなにアツくなってもね」とか思いこんでさ。

でも、もう何も失うモノは無いって開き直って、ゆ～き『ホント生まれ変わります。もう一度テニスがしたいです。』ともう一度お願いすると、顧問の先生も認めてくれて、顧問『じゃあ、今度は真面目にやれよ。』ってOK 出たんよね。ホントちっちゃなコトだったけど俺的にそれはすげえ嬉しかった。情熱って伝わるんだなあ～っ、イエス！ て思いつつ、復掃後はちゃんとテニス練習して、高校生最後の試合では4戦全勝出来たんよね。その試合んトキに顧問の先生に顧問『今日の試合内容はすごい良かった。お疲れ！』って言われたのがめちゃんこ嬉しかったなあ。

とりあえず、そんな感じで自信を少しずつ取り戻していった俺だけど、一方、学生の本業である勉強では

「学年の 250 人中、246 位」。

てんでダメでさ。すげえ国道 246 号線じゃんみたいな。(笑)

教師からのコメントにはもはや勉強とは関係の無い

「とりあえず遅刻を減らす事から始めましょう」

とか書かれちゃって、お先真っ暗ですよ。

その順位が記載された紙は当然ながら親に見せる前に

ソッコー学校のゴミ箱へノールックパス。

そのトキ、俺的には

ゆ〜き『なんで、みんな勉強頑張れんだろ？』

『そんな大学に行きたい理由があんのかなあ？』

とか思ってた。

当然の事ながらウチでもそんな話が出る訳で

仏の様に優しい母親：マヤからも

マヤ『ちゃんと勉強して、大学入りなね』

と言われていて、俺は

ゆ〜き『オッケ、じゃあソノん家で**勉強合宿**してくるわ〜』

って言いながら、

ソノん家で格ゲー（俺たちの中でカブエス 2 がブーム）やってた。(笑)

格ゲー後にゾノと夜の道端に腰かけて「夕張メロンミルク」と言う世界で一番うまい缶ジュースを二人で飲みながら
(ゾノとこういうダベリが楽しかったんよね。今もそれは変わらないけど 笑)
ゾノ『俺たち、これからどうするよ??』
ゆ〜き『全然考えてない。
何となくイメージがかっちよいいから青学入りたいかなあ。』
ゾノ『けけ(俺のあだ名)の頭じゃ無理じゃね(笑)』
ゆ〜き『うるせ。ゾノはど〜すんの?』
ゾノ『武蔵工業大学に環境系の比較的新しい課があるんだけど、そこを目指そと思ってる。環境系に興味があるんだよね。』
ゆ〜き『そっかあ、、、頑張ろう。大学入ったら合コンとかしよーぜ!!』
ゾノ『いいねえ。マジ最高の大学ライフが俺たちを待ってるな。』
とか話しながら、
ホントは頭の中で「ゾノは目標があっ**ていいなあ**」って
うらやましく思う自分と焦る自分がいて

「自分の求めている人生」ってやつが全然見えてなかった。

ガッコの先生も塾の先生も

「どこの大学に行くんだ? 入ったら何がしたいんだ??」

って聞くけどさ。俺は

「何がしたいかなんて入った事も無いのに分かるか、ボケ」

とか思って。(笑)

高校で学んだコト(サボってばかりだったけど)は

何だったんだろうなあ〜って考えてたんだよね。。

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

俺メジャーなj-popしか聞かないんだけど、
当時さ、ラップ系の曲がだんだん流行り始めてて、
Ripslymeの「one」って曲が超好きだったんよ。
そんな悩んでた俺に

「この世界に一つだけ 君は世界に一人だけ・・・」

って歌詞がズッキューンって響いてたなあ。。

「俺だけにしか出来ない事がどこかにあるはずだ・・・」

って思いながらね。

ま、迷いながらもとりあえず、ソノもキムも岡くんも勉強頑張ってるし、
俺も真似て勉強するコトにした。

そこから

ソノ『**”ガリ勉”** すっか！』

が俺らのテーマになって、そっからは高校近くの図書館で

二宮金次郎ばりに勉強した。(笑)

ゆ〜き『週3の卓球も週2ぐらいに減らそう』(少ないか・・・)

ソノ『格ゲーも勉強後の1時間だけにしよう』(多いか・・・)

とか言いながら、ソノん家で”勉強合宿”しまくる毎日だった。

以外に楽しい瞬間もあって中でも数学の因数分解とかは好きだった。

有名だった「細野真宏のXXが面白いほどわかるシリーズ」とか読んでね。

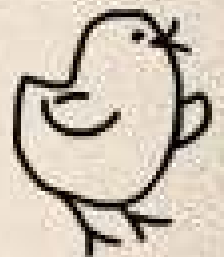
(でも数Bとか古文は最強に嫌い、無意味)

そんなガリ勉シーズンを過ごしていた、とある日にゾノから
ゾノ『俺の塾の**全国模試**があっから、けけも受けようぜ〜』
って話があっさ
ゆ〜き『マジか！？ ちょっと、全国レベル体感してみっか』
ってノリで受けたんだよね。
やってみると意外に手ごたえあって、
「もしや俺IQ高め？」とか「青学余裕で入れるんじゃないか」とか思ったり。

何か聞いてると、進研ゼミのチラシにある漫画みたいな展開だけど、
結果だけが違ってた。ゾノが結果を持ってきてくれたんだけど。
何か、暗い顔しててさ。

ゾノ『けけさん、見ない方が**良い**ぽ』
ゆ〜き『ビッグゾノさん、そりゃあマジすか！？』
って見た所、

オワタ



結果 「偏差値：44」



第一志望の青学（偏差値：58ぐらいで神の住む領域）はもちろんのコト、
滑り止めで書いた大学も**全部余裕でE判定**だった。

ゾノは気を使いながら、ボソボソと『どんまい』と言って、
その日の二人はいつもの**夕張メロンミルク**も飲まず、
それぞれの家へ帰った。

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

超絶ガビーンと思いながらも、

「ぐぐ、で、でも男ならここを乗り切るしかないでしょ！」

と逆に闘志が沸き、その後のゆ～きのガリ勉っぷりと言えば、

全盛期の夏目漱石を彷彿とさせるとかさせないとか。（笑）

そんなこんなで受験シーズン到来。この時期はホント学校に行くコトも減って、友達もホンキで最後の追い込みしてたから「個々の戦い」って感じだったなあ。

推薦組みを見ては

「**アイツラ反則だろ**」って嫉妬したり、

「**落ちる**」とか「**滑る**」とかの word を聞くと

「うおおおつ、うるせええ、**シヤアラツプ!**」って**超敏感に反応**したり、

特殊な時期だったと思うよ。あれはもう経験したくないな。

（就活んトキ、また味わうコトになったけど。笑）

俺は、勉強始める時期も遅かったし、

古典とか数学Bとかはそもそも1分も勉強してなくて、

「自分の分かる範囲（現代文、英語、数学Ⅱ）で勝負だ、コラ」

という運任せな状態で受験シーズン開始。（笑）

模試の結果が示した通り、受験の初期は全然ダメで、

第2志望から第7志望まで全部落ちた。

その頃は既に限界を感じ「素敵な浪人ライフプラン 2002」を除々に考え始めてたんよね。

そして最後の頼みの綱、第一志望である青学受験の日を迎えた。神様ってやつはちゃんといるみたいで、

「三重苦」の代わりに”**三つの奇跡**”を準備してくれたんだよね。それは。。。

- ・ 英語が難しいコトで有名だがその年だけなぜか**超簡単**
- ・ 数学は大問題が3つ出るが**全部自分が勉強した範囲**だった
- ・ 俺が勉強してない古典領域の問題自体にミスがあって、**全員に加点**

その結果、**第一志望の青学**だけ合格するコトが出来たんよ。

あんトキは電話で結果を何度も聞き返したなあ。

親も喜んで、赤飯炊いてくれた。

でも担任の先生からは「嘘はつかなくていいからな」とか、

卒業アルバムの書き込みには「**奇跡**」だの「**運**」だの

運よく受かっておめでとう word が乱発されてき (笑)

まあ、ガッコの何でもランキングで栄誉ある

「**平均点下げてそうな人：3位**」の称号を頂いているので、

当然だけど。。。 (笑)

■高校の寄せ書き

奇せきを起こす男だよアンタは

↑奇跡も漢字で書けない奴に言われたかないわ！（笑）

ケケの強運には参った。
来年は合格したる。

↑勝手に参るな！

勝負強く生きつづけられれば結構です。

お前の人生は、なんとたしう
なんとたしう頑張ってくれ

運だけでやっていけると思うなよ

↑やってくわ、むしろ運だけって何やねん！

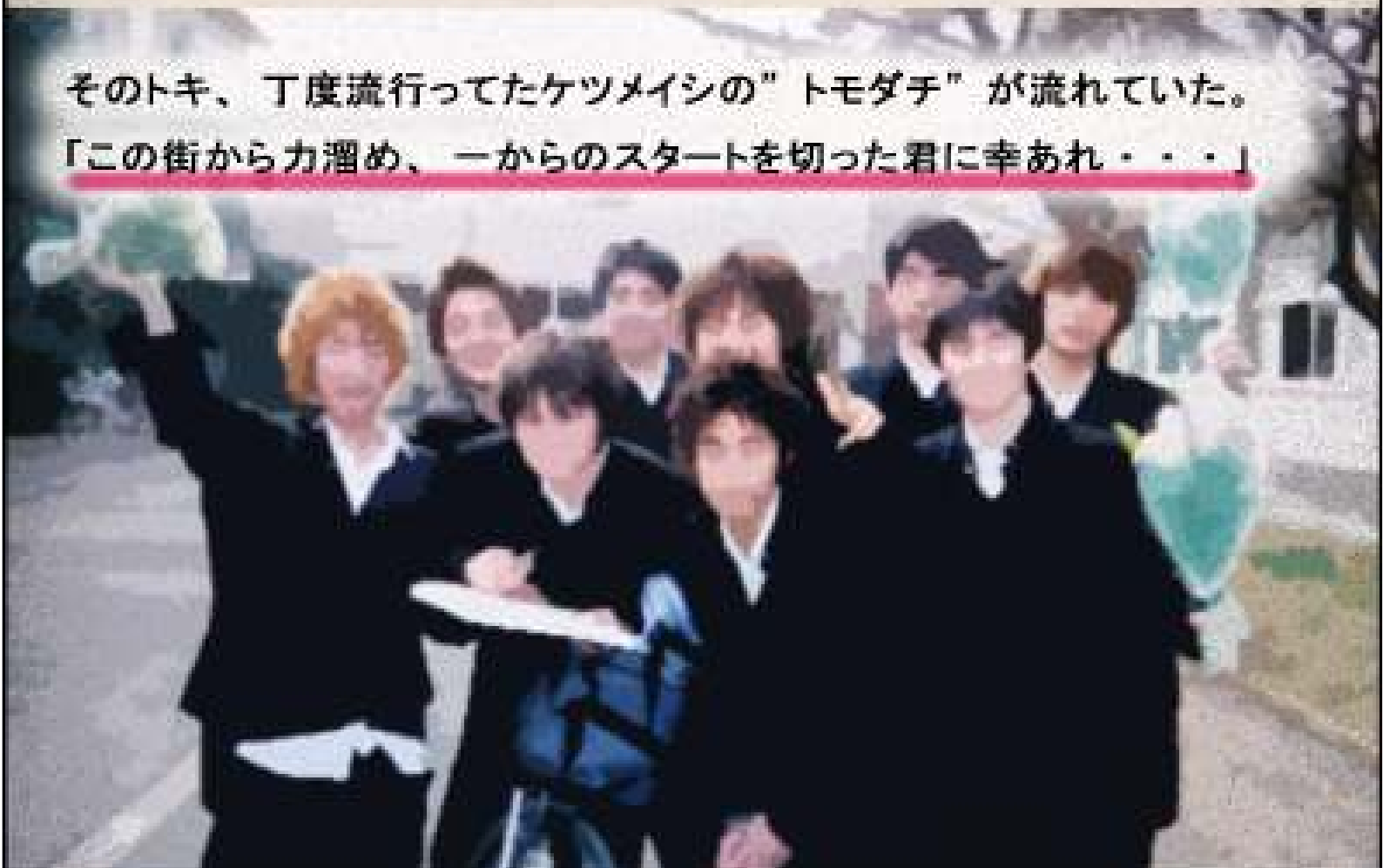
かくして、夢の青学での大学ライフが確定し、
ソノも奇跡的に超難易度の高い第一志望校に合格して
めでたく卓球ブラザーズは大学ライフに突入するコトになった。
ゆ〜き『ガリ勉効果やね〜』
ソノ『確かあ〜に、俺たち天才！？』
(たしかあ〜にいと伸ばすのが俺たちの中でのちょいブーム)
とか調子乗って、卒業式後に二人で祝杯を挙げていた。

でも心のどこかには

「大学入ったら、やりたいコトとか見つかるのかな・・・」

って、ズツとってた。

そのとき、丁度流行ってたケツメイシの”トモダチ”が流れていた。
「この街から力溜め、一からのスタートを切った君に幸あれ・・・」



caravan ticket / hitchhike story [prologue]

prologue

～旅の始まりまでの物語 大学編～



ゆき



まーくん

やりたいはずの”自分の夢”を語りながら、
その割には”何もせず”に遊んでたよ。
今思えば、夢を語るコトで満足してたんだろうなあと思うよ。
カッコわりいよなあ。。。



photo from 10t truck



2002年、念願の青学ライフが始まった。

大学では5個のサークル、5個のバイトをやって、めっちゃくちゃ楽しい時間を過ごした。具体的には。。。

- ・サークルの飲み会三昧
- ・人生初めての”合コン”
- ・4回留年している8年生と麻雀（今その人は雀士）
- ・マコちゃんという彼女誕生⇒後に2回フラれる
- ・サントリーのカクテルコンクールで入賞

とりわけ、ふれめんというテニサー

（最後まで続いたのはこのサークルだけだったなあ）では、

ずっげ楽しい仲間がいっぱい出来て超楽しかった。

テニス合宿で、朝まで飲み会したり、語りあったり、

男飲み（その名の通り男だけの男らしい飲み会）なんかは

皆、裸になって、男のアレをナニする”ぷにょんぺん”

と呼ばれる伝説の罰ゲームがあったり・・・（笑）

そんな中でも特に気の合う友達が二人出来た。

「筋肉の鍛えすぎで居酒屋の壁を破壊する男：タツヤ」

「酒乱により人生を棒に振る男：ま〜くん」

よく三人で飲みに行って、カラオケで全裸になるわ、
飲みすぎでトイレで吐くわ、部屋で吐くわ、街中で吐くわ、
ビルの屋上からパンツ投げるわの大騒ぎ。(笑)

一回、**サークル費 30 万円**くらい持った状態で飲み過ぎて、
スーパー賢者タイムに突入したトキがあったけど、
そのお金が入ったバッグをまーくんが無くして、大問題になったわ。(笑)
後に、このまーくんともヒッチハイクするコトになるんだけど、
まあ、その頃は勉強もせずにとにかく遊んでてさ。
今、思えば色んな人に迷惑かけちゃって申し訳無いと思うけど、
ホント全力で大学生っぽいコトやってたなあ。

また三人は**語り**をするのも好きで、

タツヤは「俺は消防士になる」

まーくんは「俺はスポーツバーみたいな店を出す」

俺は「俺は居酒屋を出す」

って話合ってた。

そういった話もマジで話せるダチって良いなあって思ってた。

でもそんトキに語った夢は「**何となく、出来たらいいな**」

って思う感じでき。

正直に言えば「**自分の夢なんだけど、どこか他人ごと**」

だったなあ。『じゃあ具体的にナニするの??』

って聞かれたら何も答えられないし。。。 (笑)

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

いつしか

「大学に入ったら、やりたいコトとか見つかるのかな・・・」

って疑問も忘れて、

やりたいハズの” **自分の夢**” を語りながら、

その割には” **何もせず**” に遊んでたよ。

今思えば、 **夢を語るコトに満足**してたんだろうなあと思うよ。

カッコわりいよなあ。。。

そんなトキに一冊の本に出会ったんよね。

同じクラスのトモダチ「**合コンのプロ：レオ**」の繋がりですぐ仲良くなった

「**体もでかいがアレもでかい：ナオキチ**」

の家で酒飲みながらのんびりダベってたトキにさ。

ナオキチ「ゆ～きこの本、知ってる？」

ゆ～き「タカハシアユム?? 誰それ？」

ナオキチ「超面白れえから、とりあえず読んでみ！」

ゆ～き「ふ～ん・・・」

と言われて渡されたのが「**毎日が冒険**」って本。

まあ、暇だったし、読んでみっかどって読んでみたんだけどさ。

「超アツいじゃん!!!!」



ってマジ頭ん中で第六感がスパークしたんだよね！！

その本は簡単に書けば、

「一から、”努力”と”情熱”で成功した人の話」。

経験無いのに、一から努力して

「店出店⇒大ヒット」「本出版⇒大ヒット」

という実績のある人の話なんだよね。

何か、高橋歩という人の情熱とか、感じると共に、

「もしや自分も出来るんじゃない??」ってアツくなってきてさ。(笑)

んで、自分がヤリタイコトって何だ?? って考える様になって

「ホントに”居酒屋”を出すコトが俺のやりたい事なのか??」

って質問に答えられなかったんだよね。

やっぱり「**夢を持ってる感じの自分に憧れてる**」だけで、

ホントにヤリタイコトでは無かったんだ！！って気づいたよ。(笑)

そんなトキ、ふと高校卒業した頃、高校の大親友ゾノとした

「自分探しの旅に出よう」

って約束を思い出したんだよね。

”ヤリタイコト”が見つかってないなら、

まずは”ヤリタイコト”を見つける為の**「新しい何か」**をしようって。



caravan ticket / hitchhike story [prologue]

ソッコー、ソノに電話して、「自分探しの旅PRJ」をスタートさせたんだよ。
何も変わってないソノに久々会えてちょっと安心したのを覚えてるなあ。
もちろん高橋歩の本をソノにも読んでもらってさ。ソノも超ハマって、
二人で『やるぞ〜〜〜』って感じ。(笑) マジ二人とも単純だよなあ。
ゆ〜き『行くなら、旅行じゃなくて、旅って感じが良いよね?』
ソノ『確か〜にい』(まだ流行ってる。むしろ今も言う。)
って言って、早速本屋に行って、旅の how to 本を呼んでさ。

ソノ『スペースマンジュウガニは名前とは裏腹に、食べたら死ぬ』

ゆ〜き『マジすか〜!? (笑)』

ソノ『大阪寄って、たこ焼き食うべ!』

ゆ〜き『むしろ、全店食べて、食いだおれるし』

ソノ『そうですか、大将参りました。(笑)』

ソノ『熊の倒し方を学んだぞ! **氣道**を握りつぶせばいいらしい。

これで山道も安全だ!』

ゆ〜き『さすがソノさん、ちなみに氣道ってどこすか?』

ソノ『知らん』

ゆ〜き『きっと鹿児島から沖縄まで漁船が出ているはずだ。

その**漁船をヒッチハイクすれば無料**で沖縄まで行けるんじゃない?』

ソノ『・・・間違いない。何てお前は頭が良いんだ。』

的な馬鹿丸出しトークのオンパレード（笑）

調べてるトキ、超楽しくてさ。やっぱ心の底から楽しんで

やりたいコト見つかると次から次にプラスのエネルギーが湧いてくる。

ふっしぎだよね～。それまでそんなパワー、恋愛にしか湧かなかったよ。

まあ役立つ知識はほとんど得られなかったけど（笑）

そんな感じで、ざっくの計画と予算感、時期、ゴールが決まったんよ。

・ざっくの計画はアホな**3ステップ構成**。（笑）

step① 青春18切符でまず鹿児島まで行く。

step② そして鹿児島で沖縄行きの漁船をヒッチハイクする。

step③ 無事に沖縄到着、ヒッチハイクで沖縄まで来た

サプライズ要素が地元新聞に取り上げられ、

女子にキャアキャア言われてしまい、即勝ち組み確定。（笑）



※1 青春18きっぷ（せいしゅんじゅうはちきっぷ）とは、

旅客鉄道会社線（JR）の普通列車・快速列車が一日乗り放題になる、

5日分11500円という格安ドリームチケット。

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

・予算感は「青春18切符（※1）+現金1万円」

俺とゾノはお金が無い事で

地元じゃ負け知らずの修二と彰状態だったから、

それぞれ青春18切符（※1）+現金1万円ぐらいにした。（笑）

超貧乏旅行だよな。カード類も全部置いてったからリスクーだよなあ。

・時期は「大学2年の夏」

野宿もすると思ってたから、冬に**凍死でご臨終チーン**は

避けたかたので、夏に設定。

・ゴールは「沖縄（ホワイトビーチ）」

どうせだから日本の端まで行かないと日本を周ったって気にならないのと、

そのとき二人がハマってたHYのホワイトビーチって曲にちなんで、

目的地は「沖縄（ホワイトビーチ）」に決定したんだ。

そんな、稚拙プランだったけど、

俺たちは**ホクホク顔**でその計画が成功するコトをイメージしてた。（笑）

今思えば約 800km 以上の距離を漁船が行き来するのは謎だよな。

（鹿児島市役所～那覇市役所の直線距離が約 662km ぐらいあるみたい）

事前に yahoo 知恵袋とか OKwave で

「鹿児島の漁師の方々へお知恵拝借！」って聞いときゃ良かった。（笑）

この旅が後々

「ヒッチハイク日本縦断達成」

「俺がホンキで起業を決意する」

という”人生観を変えるキッカケ”になったんだけど、
その当時の俺は脳天気「最低でも生きて帰ればいいや〜」
とか思ってたな。(笑)

当時俺たちの間でブームだった高橋歩の
「Love & Free」という本を文字って、
旅の名前を「free & crime」(自由と犯罪)という
何ともやんちゃで恥ずかしい名前をつけて旅立つコトとなった。(笑)

さあ、旅に出よう。

旅は、足を使っていく旅と頭を使って

自分の心の声を聞きに行く旅と

2種類あるんだ。

心の旅は、「今」、この瞬間から出来る。

さあ、旅に出よう。

そして、大学2年の夏が訪れる。

caravan ticket / hitchhike story [prologue]

this story continues